



関西学院大学リポジトリ

Kwansei Gakuin University Repository

広島における原爆関連行事の通時的変化（1）

著者	渡壁 晃
雑誌名	関西学院大学社会学部紀要
号	136
ページ	87-101
発行年	2021-03-12
URL	http://hdl.handle.net/10236/00029283

広島における原爆関連行事の通時的变化（一）*

渡 壁 晃**

1 はじめに

本研究の目的は戦後の広島における原爆関連行事の全体像を記述することである。行事とは、ヒロシマを想起する実践のうち、公的な要素をもち、特定の期間に開催される催しのことを指す。「ヒロシマ」とは、社会学者の浜日出夫によって「1945年8月6日の広島への原爆投下に関わる現象の総称」（浜 2005a: 25）として定義されたものである。本研究では、1955年（被爆10周年）から10年ごとに原爆関連行事を記述していく。本稿では1955年、65年、75年の行事について記述する。

2 方法

本稿では、1955年から1975年までの10年ごとの8月1日から8月15日までの間に『中国新聞』に掲載されたすべての行事について記述する。新聞記事の収集は2017年11月7日から2019年9月12日までの間に国立国会図書館関西館で行った。

ここで、新聞記事というデータについて説明する。まず、行事の情報を集めるためになぜ新聞を用いるのかということの説明する。そして、なぜ数ある新聞の中で『中国新聞』という地方紙を用

いるのかということについて説明する。

本稿で新聞を用いるのは、実際に行われた行事の全体像を最も近いかたちで記録している資料だからである。そのように考えられる理由は2点ある。1点目は、行事を網羅的に記述した資料が存在しないということである¹⁾。このような状況下では、新聞を最も網羅的に近いかたちで行事を記録している資料としてみなすことができる。2点目は、原水爆禁止世界大会のような大規模な行事についてはその行事の報告書や行事を主催した団体の出版物を確認すれば把握することができるが、規模の小さい行事については資料が散逸していたり、そもそも記録がなされていないことがあるなど調査が困難であるという状況があげられる。主催した団体等が記録を残していなかったとしても、本稿における行事は公的な要素をもつものであるので新聞で報道されている可能性がある²⁾。

では、なぜ新聞の中でも地方紙である『中国新聞』を用いるのか。理由は2点ある。1点目は、地方紙には全国紙よりも地域の細かな行事が取材されていると考えられるため、より詳細に行事の全体像を把握できると考えられるからである。2点目は、平和記念式典のような全国紙に掲載されている行事は地方紙にも掲載されていると考えられるからである。以上の理由から『中国新聞』1紙の報道を集中的に調査することにした。

*キーワード：戦争社会学、ヒロシマ、行事

**関西学院大学大学院社会学研究科博士課程後期課程

- 1) 原爆関連行事を網羅的に近いかたちでまとめたものとして広島市広報課が作成している「平和関連行事一覧表」がある。「令和2年度平和関連行事一覧表」の場合、掲載されている行事は「市又は市の関係団体が主催、共催、協賛、後援する行事」あるいは「指定管理者が管理する市の施設が主催、共催する行事」で、7月30日現在把握しているものに限定されている（広島市 2020）。つまり、広島市が関わっていない行事はこの表に記載されていないのである。
- 2) 中野康人が指摘するように、新聞には客観的な事実を伝える側面と主観的な評価や意見を伝える側面があるが（中野 2009）、本稿では前者の側面に注目する。

つぎに、調査対象とする期間について説明する。本稿で対象とするのは8月1日から8月15日までの記事に掲載された行事である。この期間を設定したのは8月6日前後の行事の状況をとらえるのが目的だからである³⁾。先行研究においても、8月6日前後の行事を分析する際には、8月1日から8月15日までの期間を対象としている(江嶋 1977)。

本稿では、10年ごとの原爆関連行事の状況を記述する。なぜなら、10年ごとの行事を記述することで、時代ごとの行事の状況の変化をとらえることができると考えるからである。浜は広島市が毎年発行している「平和関連行事一覧表」をもとに2004年から2005年にかけて大幅に行事が増加したことを指摘し、それは被爆60周年の影響であると分析している(浜 2005b: 32)。このことは10周年、20周年……と10年ごとに行事数が大きく増加することを示唆している。10年ごとの行事をすべて記述することでその10年間の社会状況を反映した行事の状況を知ることが可能になる。

3 広島における原爆関連行事

本節では、広島における原爆関連行事について原則日付順で記述していく⁴⁾。行事名や主催者名などは略称等であっても原則新聞記事の通りに記載している。「」で示したのが行事名である。

3.1 1955年の行事

3.1.1 行事の内容

7月10日から8月4日にかけて、ロンドン市美術館でロンドン市主催の「“ヒロシマ” 原爆図展」が行われた。この展覧会では丸木位里・赤松俊子夫妻による「原爆の図」三部作の展示が行われた。

8月1日には、府中小学校で原・水爆禁止世界大会全通準備委員会と広島県労商協同組合の共催で原爆10周年を記念した「巡回映画会」が開かれた。この映画会では、「愛妻物語」、「無限の瞳」、「漫画」などの作品が上映された。また、同じ名称・内容の行事が8月2日に宇品小学校で、8月3日に江波小学校で、8月4日に矢●小学校⁵⁾で、8月5日に基町郵政会館で開かれている。

8月2日には、広島市平和記念館で「映画『原子力の恵み』の特別試写会」が開催された。特別試写会とあわせて市当局への贈呈式と「原子力平和利用の必要性」という講演が行われた。

8月3日、4日、6日には、広島市内2か所で中国新聞社主催の「納涼 映画の夕」が開かれた。この行事では映画「無限の瞳」などが上映された。

8月4日から6日にかけて、本願寺広島別院の「原爆十周年記念法要」が行われた。

8月5日には、中島新町の誓願寺で「原爆犠牲者追悼法要・仏教講演会」が行われた。同じ日には、「慈仙寺鼻戦災供養塔落成式」が開かれた。この供養塔は「10周年記念日までに市内の原爆で死亡した多数の無縁仏の霊を合祭しようというもの」(『中国新聞』1955.8.6朝刊)であった。また、ザビエル記念館で32の世界各国の宗教者が参加し、「原水爆問題に対して宗教人としていかに対処するか」などを協議する「宗教世界会議広島大会(広島宗教平和会議)」が、児童文化会館で「スクール・バンドとしては日本一を誇る」(『中国新聞』1955.8.5朝刊)天理スクールバンド(天理中高校)が来広し、原爆犠牲者の慰霊演奏を行う中国新聞社主催の「天理スクール原爆記念演奏会」が、学区内の原爆遺児36名を招いて慰める己斐小学校の「平和の集い」が開かれた。そして、北京では「原子戦争反対大会」が、ニューヨークでは平和団体「反戦連盟」による「反戦デ

-
- 3) 調査時に8月15日以降の新聞についても確認したが、8月15日を過ぎると行事に関する記事が極端に減ることがわかった。そのため、8月6日前後の行事の状況をとらえるためには、8月15日までの新聞記事を調査すれば十分であると判断した。
- 4) 『中国新聞』には広島以外の場所(たとえば、東京や海外)で開催された行事についても報道されている。それらについても記述していくことにする。また、8月1日から8月15日までではない日(たとえば7月や9月)に開催される行事も掲載されることがあるがそれらについても記述していくことにする。
- 5) ●は資料の状態により文字が読み取れなかったことを示している。これより後に出てくる●についても同様である。

表1 1955年8月6日の慰霊行事⁶⁾

行事名	場所	主催者
中国電●局従業員原爆慰霊碑除幕式並びに法要	広島市基町無線通信部裏	
合同慰霊法要	比治山町多聞院	広島郵政局・市内郵便局・貯金局・全通徒組広島地区本部など
慰霊祭	元大本営跡	
水上法要（船上での読経）	丹那～本願寺広島別院	本願寺広島別院
原爆犠牲者供養式	平和記念公園内新供養塔前	広島市戦災供養会
原爆慰霊祭	基町広島支部	PL 教団
平和記念式典	平和記念公園内慰霊碑前	
「さくら隊」の殉難碑の除幕式	新川場町百メートル道路の緑地帯	
船上での読経	元安川	本願寺広島別院
供養灯ろう	広島市の7つの川	広島川まつり委員会（広島市商店街連合会の奉仕）
灯ろう流し		本願寺広島別院

モ」が行われた。また、サンパウロ市平和擁護委員会の「原・水爆反対運動大会」もこの日に行われている。さらに、8月5日から7日にかけて、広島市細工町の大仏殿で世界平和広島仏舎利塔建設会の「原爆10周年記念大法要」が、大竹小学校で広島大学医学部各教室から教授・学生30名が大竹市を訪れ、無料診療を行う「原爆被災者特別診療」が行われた。

8月6日には、複数の慰霊行事が行われている。広島市基町無線通信部裏では電信電話事業関係の法要である「中国電●局従業員原爆慰霊碑除幕式並びに法要」が、比治山町多聞院では郵政関係の「合同慰霊法要」が、元大本営跡では元広島師団司令部（当時は中国軍管区司令部）の職員有志が発起人となり開催した「慰霊祭」が開かれた。そして、丹那・本願寺広島別院間では本願寺広島別院主催の「水上法要（船上での読経）」が、平和記念公園内の新供養塔前では広島戦災供養会主催の「原爆犠牲者供養式」が行われた。『中国新聞』によると、「原爆犠牲者供養式」では「仏教はもとよりキリスト教など10宗派がとりどりの僧服、神服で現われ、それに渡辺市長、鈴川会長ほか遺族、一般参列者約2000名が集まり、死没者への祈りがしめやかにささげられた」。また、

「式はまず各宗派特有の祈とう、読経があつて市長、会長、遺族代表に引続き一般の焼香があとからあとからと続き、めい福を祈る香煙は終日会場に立ち込めていた」という状況であった（『中国新聞』1955.8.6夕刊）。さらに、基町広島支部ではPL教団主催の「原爆慰霊祭」が、平和記念公園内の慰霊碑前では「平和記念式典」が、新川場町百メートル道路の緑地帯では原爆で犠牲になった移動劇団「『さくら隊』の殉難碑の除幕式」が行われた。日没後には、元安川での本願寺広島別院の「船上での読経」と、広島市の7つの川で7色の灯ろう約1万個を流す広島川まつり委員会主催の「供養灯ろう」⁷⁾と5000個の灯ろうを流す本願寺広島別院の「灯ろう流し」が行われた。

8月6日には、慰霊行事以外の行事も多く行われている。平和記念公園では「平和記念式典」終了後に原爆後、広島市の復興に努力した90名を表彰する「原爆功労者表彰式」とアメリカ平和協会幹事のアームストロングから広島市民に贈られた「電気チャイムの贈呈式」が、午後6時から日蓮宗主催の「世界立正平和運動広島大会」が行われた。「世界立正平和運動広島大会」では日本全国から3000名の僧と信徒が集まり、後述する「原・水爆禁止世界大会」と合同して犠牲者への

6) 空欄は新聞記事からは不明であったことを示している。以下の表についても同様である。

7) 広島市商店街連合会の奉仕として行われた。

祈りと平和への願いを打ち出した。そして、浅野図書館では「広島歌人大会」が、郵政会館では「句集『広島』出版記念会」が、大竹小学校では「原爆被災者大竹同志会結成式」が、広島女学院中学校講堂では「世界連邦『母の会』広島支部結成式」が開かれた。「世界連邦『母の会』広島支部結成式」では、「原爆十周年を迎えるにあたり、われら母として世紀の悲劇を再び地上に繰り返すまじく母の愛情と良識をもって世界の隅々まで母心に訴え、世界平和のかけ橋として世界平和建設への達成のため使途として発足せんこと」(『中国新聞』1955.8.7朝刊)が決議された。「広島平和記念資料館落成式」もこの日に行われ、広島平和記念資料館ではこの日から8月8日までの間に「原・水爆展」が開かれた。そして、広島市内●邸ホテルで「八・六大会参加の文学者を囲む座談会」が著名作家や詩人、文学愛好家など90人以上が集まって行われた。そのほかに、住友ビルでは被爆時に広島市内金融界の第一線で活躍していた伊藤広銀副頭取、高山日銀広島支店営業課長ら⁸⁾9名が集まって被爆直後の金融面の再建やその他の思い出を語り合う「原爆思い出の会」が開

かれた。そして、8月6日と7日には、広島市中央公民館では「原爆十周年追悼講演会」が行われた。

8月6日から8日にかけて、広島市公会堂・平和記念館・本川小学校・広島大学付属小学校・農協ビルなどで「原・水爆禁止世界大会」が開かれた。この行事については協賛行事・関連行事が複数開催されている。協賛行事としては、8月5日から8日まで平和記念館で開かれた「広島平和美術展」、8月6日と7日に平和記念館で行われた「映画『無限の瞳』の一般公開」、8月7日に広島市公会堂で開かれた「平和合唱交歓会」、8月7日に藤田ビルで開かれた「軍事基地問題各地区代表者懇談会」、8月7日に教育会館で行われた「全国官公立大学教授懇談会」、8月7日に新生学園で行われた日本子供を守る会主催の「座談会」があげられる。関連行事としては、8月5日に中央公園音楽堂前広場で行われた「原・水爆禁止呉市民大会」、8月6日から7日にかけて山陽高校などで行われた「原・水爆禁止世界大会『学生の集い』」、8月8日に広島市公会堂で交響詩「デルタの歌」、「父をかえせ母をかえせ」と「碑銘」詩

表2 「原・水爆禁止世界大会」の協賛行事・関連行事

協賛／関連	行事名	場所	主催者
	(原・水爆禁止世界大会)	広島市公会堂・平和記念館・本川小学校・農協ビル・藤田ビル・広島大学付属小学校	
協賛	広島平和美術展	平和記念館	
	映画「無限の瞳」の一般公開	広島市平和記念館	
	平和合唱交歓会	広島市公会堂	
	軍事基地問題各地区代表者懇談会	藤田ビル	
	全国官公立大学教授懇談会	教育会館	
	座談会	新生学園	日本子供を守る会
関連	原・水爆禁止呉市民大会	中央公園音楽堂前広場	
	原・水爆禁止世界大会「学生の集い」	山陽高校など	
	詩と講演と映画の夕	広島市公会堂	
	原・水爆禁止三次地区大会	三次市十日市小学校講堂・三次市松学公園	
	原・水爆禁止大会長崎会議		
	原・水爆禁止世界大会関西大会	大阪中之島公会堂	
	コーラスと映画の夕	大阪中之島公会堂	
	原・水爆禁止福岡大会	九州大学医学部講堂(福岡市)	
	原・水爆禁止世界大会東京会議		

8) 肩書は被爆当時のものである。

集「広島」からの合唱・演奏や映画「無限の瞳」の上映、原爆構成詩「命と怒りの詩」の上演などが行われた「詩と講演と映画の夕」、8月9日の三次市十日市小学校講堂・三次市松学公園での「原・水爆禁止三次地区大会」、8月10日の「原・水爆禁止大会長崎会議」、8月13日の九州大学医学部講堂での「原・水爆禁止福岡大会」、大阪中之島公会堂での「原・水爆禁止世界大会関西大会」とそのあとに行われた「コーラスと映画の夕」、8月15日の「原・水爆禁止世界大会東京会議」があげられる。

8月7日には、広島商業高校講堂で広島商業高校PTA主催の「元広島原爆犠牲者の追弔会」が、元安川で元町婦人会主催の「トウロウ流し」が、平和記念公園一帯で広島祭委員会（広島市・広島商議所・広島観光協会・広島市商連・FK・ER・中国新聞社からなる委員会）主催の「第4回ひろしま川祭り（原爆慰霊花火大会）」が行われた。「第4回ひろしま川祭り」は、「原爆十周年として例年にない盛んな行事とするため協議をかさね」た結果、「広島地方ではめったに見られない大花火尺玉をはじめ、腕によりをかけて色彩と変化に工夫をこらした花火一千発を打ち上げる」という「花やかなプログラム」で行われた（『中国新聞』1955.8.4朝刊）。そして、8月7日から14日にかけて「カーニバル海の平和祭」が開かれた。

8月8日には、長崎市原口町国際文化会館で原爆殉難者慰霊祭奉賛会主催の「被災者大会」が開かれた。8月8日から20日の間には、ジュネーブで国際連合主催の「原子力利用国際会議」が開かれた。この行事は原子力を平和と人類の福祉のために利用する目的で知識を討議し、交換し、共通のものとするために66か国の原子核科学および原子核工業の専門家が集まって行われる会議であった。そして、この行事と並行して、8月7日から20日までの日程でジュネーブ市内で「原子力工業博覧会」が行われた。

8月9日には、長崎市で「平和祈念像除幕式」と「原爆犠牲者十周年慰霊祭・平和記念式典」が行われた。

8月10日には、国泰寺で「原爆十周年犠牲者追●」の行事として「観音講演会」が開かれた。

同じ日には「原爆10周年記念平和大集会」が行われた。さらに、広島記念委員会主催の「広島被爆記念集会（原爆投下10周年追悼大会）」がカーネギー・ホールで開かれた。広島記念委員会とは「ノーモア・ヒロシマズ」「原子力の平和利用」「東西間に核爆発実験管理の協定を結ぶ」の3項目を基本的スローガンとし、「戦争回避声明」の趣旨を具体的に実現することを目標とする団体であるという（『中国新聞』1955.8.3夕刊）。

8月12日には、広島市社会課が慈仙寺鼻供養塔に合祭されている「原爆死没者遺骨判明者の引渡し」を行った。同じ日には、広島市国泰寺町中央幼稚園園庭で原爆犠牲者へのなぐさめと園児たちの家庭の間の親しみを増すことをかねた「盆踊り大会」が行われた。

8月14日から8月16日にかけて、朝日ホールで土曜●の個展である「原爆記録画展」が行われた。

8月15日には、広島市公会堂で中国新聞社主催の「交響曲“ヒロシマ”初演」が行われた。

8月20日には、教善寺で「原爆十年追悼特別講演会」が開かれた。

3.1.2 小括

この年代の行事の特徴は3点ある。

まずあげられるのが、8月6日から8日にかけて開かれた「原・水爆禁止世界大会」を中心に多様な関連行事・協賛行事が行われたということである。「原・水爆禁止世界大会」に関連して「広島平和美術展」や「軍事基地問題各地区代表者懇談会」といった多様な内容の行事が行われた。そして、「原・水爆禁止世界大会関西大会」や「原・水爆禁止世界大会東京会議」のように行事は各地で行われた。

2つ目にあげられるのが、「映画『原子力の恵み』の特別試写会」や「原子力利用国際会議」などのように原子力の平和利用を主張する行事がみられたことである。

3つ目にあげられるのが、慰霊行事の多様性である。8月6日に原爆供養塔で開かれた「原爆犠牲者供養式」では「死没者への祈りがしめやかにささげられた」のに対して、「第4回ひろしま川祭り（原爆慰霊花火大会）」という慰霊行事は「花やかなプログラム」で行われた。1965年、75

年の慰霊行事には「花やか」さを前面に出したものは見当たらなかった。

3.2 1965 年の行事

3.2.1 行事の内容

7月31日には、平和記念公園で平和記念式典に向けた「平和記念公園一斉清掃」が行われた。同じ日には、広島別院で広島市原水協主催の「被爆20周年追悼法要」が開かれた。また、7月31日から8月2日にかけて、東京都体育館・大田区体育館・明治大学・法政大学・小石川サッカー場などで日本原水協の「第11回原水爆禁止世界大会全体会議」が開かれた。

8月1日には、中島地区西品寺で「高屋町原爆20周年記念慰霊祭」が、竹屋小学校講堂で「広島市竹屋学区原爆死没者合同慰霊祭」が行われた。同じ日には、平和記念公園の原爆慰霊碑をはじめ、広島市内43か所の慰霊碑をめぐる「原爆死没者慰霊碑巡礼」が行われた。この行事では広島原爆資料保存会が被爆20周年を記念して一般から参加者を募集し、遺族や一般市民約100人が参加した。そして、広島市公会堂では核禁会議主催の「核禁“平和の灯”全国大会」が、広島市内では西日本各地から学生や若い男女約1000人が参加した「平和を守る青少年の広島大会」が開かれた。「平和を守る青少年の広島大会」では、「日本人は原爆によって世界平和の先導となった。戦争の道具としての平和運動でなく全人類の心に愛と調和を満たす正しい平和運動を推進しよう」との大会宣言が採択された（『中国新聞』1965.8.2朝刊）。さらに、広島平和記念会館では広島歌話会の「原爆20周年短歌大会」が、広島市千代田町大学会館では『『広島詩集——原爆投下20年号』出版記念会』が行われた。

8月2日には、三次市三次町本通り子供会の33人が三次市専法寺にある「佐々木貞子の墓の清掃」を行った。また、この日から8月7日にかけて高田郡甲田保健所管内で「原爆検診」が行われた。

8月3日には、西条の教善寺で「西条町原爆犠牲者慰霊祭」が、広島市上流川町の合同庁舎裏庭で広島国税局の「慰霊碑除幕式と20年忌の法要」が、広島市の農協ビル講堂では県農協中央会・県

経済連・県信連など広島県下の農業7団体による「県農業会原爆物故者20周年追悼法要会」が、百メートル道路で日本損害保険協会広島地方委員会の「慰霊と『友愛の碑』除幕」が行われた。この日から8月10日にかけて、丸善広島支店3階特別会場で『『広島の文学』資料展』が開催された。この行事は原爆文学資料を中心とした300点の資料展で、1965年7月に東京で結成された原爆被災資料収集協力委員会の運動に関連した行事であった。

8月4日と5日には、広島市公会堂で「原爆ドラマ『河』の合同公演」が行われた。この行事は1963年初演の「原爆詩人」峠三吉の晩年を描いた土屋清作の「河」の再々演であった。そして、8月4日から9日にかけて、平和記念公園でヒロシマ・アピールと題した「大前博士野外油絵展」が開かれた。この行事では大前が8歳の時の被爆体験をもとに制作した「戒めの鏡」など100号以上の作品12点が展示された。

8月5日には、二葉の里仏舎利塔で仏舎利塔建立奉賛会主催の「原爆死没者供養タイムツ行事」が行われた。同じ日には、己斐町の新旭橋から本川小学校のルートで原水協主催の「平和行進」が、広島市内で原水禁日本国民会議主催の「平和行進」が行われた。それに関連して、8月5日から6日にかけて、中島小学校などで日本原水協の「第11回原水爆禁止世界大会広島大会」が、本川小学校などで原水禁日本国民会議の「被爆20周年原水爆禁止世界大会広島大会」が開かれた。さらに、8月5日のパリではフランス婦人同盟主催の広島原爆投下20周年を記念した「集会」が、フランス・サルト県ではこの日フランス各地で開かれた広島記念集会のひとつである「青年集会」が行われた。また、8月5日から8日にかけて、広島市平和記念館で「第11回広島平和美術展」が開かれた。

この年も8月6日には複数の慰霊行事が行われている。供養塔では神道、キリスト教、仏教といった宗派を超えて無縁仏を供養する「原爆死没者供養会」が行われた。広島市加古町の旧県庁跡の慰霊碑では「40年度県職員原爆犠牲者慰霊式」が、百メートル道路にある医師会原爆殉職碑前では広島市医師会の「原爆殉職会員・医療従事者

表3 1965年8月6日の慰霊行事

行事名	場所	主催者
原爆死没者供養会	供養塔	
40年度県職員原爆犠牲者慰霊式	慰霊碑前（広島市加古町の旧県庁跡）	広島市三川町、広島県職員原爆被爆者更生会
原爆殉職会員・医療従事者20周年合同追悼慰霊祭	医師会原爆殉難碑前（百メートル道路）	広島市医師会
慰霊碑除幕と追悼法要	広島高等裁判所前庭（広島市基町）	
原爆死没者追悼法要	草津町中央魚市場	広島市原水協
原爆死没者追悼法要	見真講堂	県被団協
被爆20周年少年少女慰霊の集い	原爆の子の像の前	広島折鶴の会
被爆20周年原爆死没者慰霊・平和記念式	平和記念公園内原爆慰霊碑前	広島市
原爆死没者追悼会	平和記念公園内平和観音像前	中島平和観音会
護国神社原爆慰霊祭	護国神社	
原爆犠牲者慰霊祭	世界平和記念聖堂	幟町カトリック教会
原爆犠牲者追悼船上大法要	元安川	西本願寺広島別院
二葉山仏舎利塔上棟式と慰霊祭		
慰霊灯ろう流し（延期）	原爆ドーム南側	
原爆被災20周年犠牲者追悼流灯会（延期）	平和記念公園兩岸の元安川・本川	広島悲願の会

20周年合同追悼慰霊祭」が、広島市基町の広島高等裁判所前庭では広島市で被爆した法曹関係者の霊を慰める「慰霊碑除幕と追悼法要」が、草津町中央魚市場では広島市原水協の「原爆死没者追悼法要」が、見真講堂では県被団協の「原爆死没者追悼法要」が、原爆の子の像の前では広島折鶴の会の「被爆20周年少年少女慰霊の集い」が、平和記念公園では広島市の「被爆20周年原爆死没者慰霊・平和記念式」が、平和記念公園の平和観音像前では中島平和観音会の「原爆死没者追悼会」が、護国神社では「護国神社原爆慰霊祭」が、世界平和記念聖堂では幟町カトリック教会の「原爆犠牲者慰霊祭」が、元安川では西本願寺広島別院の「原爆犠牲者追悼船上大法要」が行われた。「二葉山仏舎利塔上棟式と慰霊祭」もこの日に開かれた。この日予定されていた広島夏まつりの一環として原爆ドーム南側で行われる「慰霊灯ろう流し」と広島悲願の会が読経のうちに平和記念公園兩岸の元安川と本川に1万個の灯ろうを流す「原爆被災20周年犠牲者追悼流灯会」は風雨が強いため延期となった。『中国新聞』によると、広島悲願の会は1964年に「平和の鐘」を平和記念公園に建設し、原爆犠牲者の供養をしている平和団体である（『中国新聞』1965.8.15朝刊）。

1955年と同様に8月6日には慰霊行事以外の行事も行われている。広島市公会堂では「被爆者大会」が開かれ、山口県から出発した日本原水協の「平和行進」がこの日、平和記念公園に到着した。那覇市上泉町の広場では沖縄原水協の「被爆20周年原水爆禁止沖縄県集会」が開かれた。8月6日から11日にかけて、天満屋の5階で中国新聞社会事業団主催・ミノルタカメラ株式会社協賛の「素顔の女流100人写真展」が開かれた。この行事は原爆被災者援護と社会事業資金達成のため開催されたもので、「広島市に生まれ、おさない日に原爆のためふたりの両親を失った被災者のひとり」（『中国新聞』1965.8.1朝刊）である井上清司の写真集「素顔の女流」の原画100点が展示された。

8月6日には海外でも複数の行事が行われた。ニューヨークのタイムズ・スクエア近くの7番街38丁目では「広島再現を防ぐためいまこそベトナム戦争をやめよう」というテーマで「ベトナムの平和を要求する街頭集会」が行われた。ニューヨークの世界博覧会会場ではWSP（平和のための婦人運動）ニューヨーク支部の会員を中心に約700人の女性たちが全員黒服に身をつつみ、会場内を「行進」した。さらに、この日には「ヒロ

シマ・デー」という行事が各地で行われている。アメリカではアメリカ・ミズーリ州セントルイス市平和と自由のための婦人国際連合が、オーストラリアではオーストラリア・ビクトリア州ジロング市ジロング地区平和協議会が、ニュージーランドではニュージーランド・オークランド市ヒロシマ・デー委員会が、西ドイツでは西ドイツ・国際反戦同盟シュツットガルト支部が主催した。西ドイツの「ヒロシマ・デー」は1週間続けられた。また、8月7日・8日には、オーストラリアでオーストラリア・ビクトリア州国際協力と軍縮のためのオーストラリア、ニュージーランド会議の主催で「ヒロシマ・デー」が開かれた。

8月7日には、広島女学院中学校講堂で『ワールド・フрендシップ・センター』（世界友情の家）発足総会」が行われた。この組織は広島在住のアメリカ人平和運動家のバーバラ・レイノルズが提唱し、「あくまで人類的な立ち場に立ち、政治、経済体制や思想、宗教の相違を超越して被爆者の世界の人々の意見を交換し理解と協力関係を促進して平和達成への道をみつけることを目的」（『中国新聞』1965.8.8朝刊）として結成されたものである。また、長崎市公会堂では核禁会議主催の「被爆20周年核禁九州長崎大会」が開かれた。閉会後には、参加者による「ちょうちん行列」が行われた。

8月8日には、東海寺で東京都原爆被害者団体協議会の「慰霊祭」が行われた。その後、遺族・被爆者50人ほどを囲んだ「懇談会」が行われた。同じ日には、長崎市営大橋球場で日本原水協の「第11回原水爆禁止世界大会長崎大会」が開かれた。また、8月8日・9日には、医師会館や国際体育会館などで原水禁国民会議の「被爆20周年原水爆禁止世界大会長崎大会」が開かれた。

8月9日には、平和祈念像前で長崎市の「原爆犠牲者慰霊祈念式典」が行われた。同じ日には浦上天主堂で「追悼ミサ」が、城山小学校と長崎大学で「慰霊祭」が行われた。

8月11日には、都立体育館で原水禁国民会議の「核戦争阻止・ベトナム侵略反対国民集会」が開かれた。また、8月11日から13日にかけて、東京・三宅坂の社会文化会館で原水禁国民会議の「被爆20周年原水爆禁止世界大会国際会議」が開

かれた。

8月16日には、山県郡千代田保健所管内で「原爆検診」が行われた。

開催日程は不明であるが、広島市内の百貨店で被爆者援護のための内外有名人の「色紙展」が開かれた。この行事は8月4日の朝刊に掲載されている。

3.2.2 小括

この年代の行事の特徴は2点ある。

まずあげられるのが、平和団体・平和運動が重要な位置を占めていたことである。象徴的なのは、とうろう流しの主催者である。1955年には広島川まつり委員会や本願寺広島別院、基町婦人会といった組織によって行われていたのに対し、1965年には広島夏まつりの一環として行われたものに加え、平和団体である広島悲願の会によってもとうろう流しが行われている。そして、「平和を守る青少年の広島大会」では「正しい平和運動を推進」することが主張された。これは、当時正しい平和運動がどのようなものであるかについて議論がなされていたことを示唆している。

2点目にあげられるのが、ベトナム戦争との関連である。「ベトナムの和平を要求する街頭集会」や「核戦争阻止・ベトナム侵略反対国民集会」といった行事にみられるように、この時期の原爆関連行事にはベトナム戦争との関連でヒロシマを想起するものがあつたことが読み取れる。

3.3 1975年の行事

3.3.1 行事の内容

5月24日から8月1日にかけて、日本原水協の「被爆30周年国民平和行進」が行われた。被爆者援護法の実現や原水禁運動の国民的統一などのスローガンを掲げ、全国4コースから広島を目指してリレー行進した。

6月26日から7月31日まで6回にわたって、原水禁運動の統一について話し合う「原水禁統一問題懇談会」が開かれた。懇談会は、社会党・共産党・総評・日本平和委員会・中労連・日本科学者会議とオブザーバーの日本被団協からなる。7月31日には「社会党中執委」で原水禁運動の統一問題について協議がなされた。この結果、原水禁統一問題懇談会の座長である総評と日本平和

委員会の代表が示した「原水禁運動と組織の統一を目指すあっせん案」を原則的に支持し、国民的統一を実現するため今後一層努力するとの態度を決めた。

7月27日には、広島市立第一高女の追悼法要である「被爆30周年追悼法要」が行われた。

7月31日には、中国新聞ビルで県地域婦人団体連絡協議会の「被爆30周年県婦協平和婦人大会」が開かれた。この行事では、「世界平和を望む世界中の婦人に核兵器の廃絶を呼びかけるとともに、次代の子どもたちに平和の尊さを語り伝え、永遠の平和を確立するために努力する」(『中国新聞』1975.8.1朝刊)という大会宣言が採択された。また、7月31日から8月2日にかけて、労働会館で国労広島地方本部の「第28回定期大会」が開かれた。この行事では原水禁運動の統一と発展に努力し、被爆者援護法制定の闘いを強化することなどを盛り込んだ大会宣言が採択された。

8月1日には、平和記念資料館前の広場で二代目西崎緑後援会広島支部による原爆犠牲者の霊を慰める「盆踊り」が行われた。同じ日には、広島大学本部で「広島大学『平和科学研究センター』発足式」が、広島県立体育館で創価学会青年部の「75反戦平和中央集会」が開かれた。このほかに、見真講堂では核禁会議の「核禁広島全国集会」が、東京都の太田体育館では日本原水協の「広島・長崎被爆30周年第21回原水禁世界大会東京大会」が開かれた。また、8月1日・2日には、東京・神田の学士会館で日本原水協の「原水爆禁止世界大会国際予備会議」が行われた。そして、8月1日から5日にかけて、アメリカ・オハイオ州のウィルミントン大学でバーバラ・レイノルズが主催する「広島、長崎30年後——ウィルミントン会議」が行われた。この会議は平和運動家ら100人が参加して広島、長崎の被爆体験をもとに平和のあり方を追求するもので、会議での討議をまとめ、日米両国の平和教育推進の教材づくりを進めるのが狙いとされていた。また、8月1日から6日にかけて、天満屋で中国新聞社主催の「原爆画家・福井芳郎追悼展」が開かれた。この行事では、原爆記録画の大作シリーズ11点を中心に被爆直後の市内を描いたスケッチ26点が展

示された。そして、8月1日から15日にかけて、広島センタービルで原爆写真家佐々木雄一郎の個展「ヒロシマは生きている」が開かれた。この展覧会は、「終戦の年」、「ただ一発でこんなになった広島」など11のテーマごとに組み写真で構成されていた。さらに、8月1日から27日にかけて、広島市立中央図書館で「原爆詩人峠三吉の遺作展」が行われた。この行事では、ガリ版刷りの「原爆詩集」など約200点の資料が展示された。8月1日からは平和記念館で「原爆死没者名簿の公開」が行われた。この行事については何日間行われたか不明であるが、「8日までに75人の遺族が見つかった」(『中国新聞』1975.8.9朝刊)との報道がなされていることから少なくとも8月8日までは行われていたと考えられる。

8月2日には、平和記念公園で広島市と広島市公衆衛生推進協議会の「平和記念公園の一斉清掃」が、平和記念資料館前で江波盆踊保存会の「原爆死没者供養盆踊り」が、広島市社会福祉センターで「広島県朝鮮人被爆者連絡協議会の結成大会」が行われた。広島県朝鮮人被爆者連絡協議会は初めての在日朝鮮人の被爆者組織であった。同じ日には、長崎市の市民会館で核禁会議の「長崎集会」が行われた。

8月3日には、遺族らでつくる原爆被災資料保存会の60人が広島市内にある原爆慰霊碑43か所を巡礼し、犠牲者の霊を慰める「原爆資料保存会原爆慰霊碑巡拝」が行われた。同じ日には、東海寺で東京都の被爆者組織「東友会」の「原爆犠牲者慰霊祭」が、広島流川協会で「原爆乙女や原爆、戦災などで肉親を失った孤児らが久しぶりに再会」し、「これまでの苦労や思い出を語り」(『中国新聞』1975.8.4夕刊)あう「集い」が、広島市立中央図書館前庭で「ヒロシマよりも誇らしき名をもつまちは世にあらず」と、被爆後の広島を詠んだ英国の詩人「エドモンド・ブランデンの詩碑の除幕式」が、世界平和記念聖堂で幟町カトリック教会の「原爆犠牲者追悼演奏会」が開かれた。8月3日から4日にかけて、労働会館などで原水禁国民会議の「原水爆禁止世界大会国際会議」が、広島国際ホテルで国内外の学者・文化人が集まり討議する「被爆30年広島国際フォーラム」が開かれた。

表4 1975年8月5日・6日の詳細が新聞に掲載されたデモ行進⁹⁾

開催日	行事名	ルート	主催者
8月5日	デモ行進	廿日市駅前～平和記念公園	山口大学ユネスコクラブ平和キャラバン
	第21回原水爆禁止世界大会国民大行進	松原公園・平和記念公園～広島県立体育館	原水爆禁止広島県協議会または日本原水協
	草の根平和行進	平和記念公園～広島県立体育館	原水禁国民会議
	デモ行進	松原公園～平和記念公園	民学同
	デモ行進	稲荷橋～八丁堀～紙屋町～平和記念公園	国鉄動力車労組青年部
	デモ行進	広島大学青雲寮～天満屋前～労働会館	8・6広島反戦実行委員会（中核派）
	デモ行進		被爆30周年原水爆禁止世界大会全国学生実行委員会
8月6日	デモ行進	紙屋町～相生橋～広島大学	広島反戦集会実行委員会（中核派）
	デモ行進	戸坂～松川公園	胎動群衆の渦
	デモ行進	平和記念公園～八丁堀	世界真光文明教団
	デモ行進	広島大学歯学部～広島大学本部	广大歯学部自治会

8月4日には、広島市公会堂南側の原爆犠牲教師と子どもの碑の前で遺族や教育関係者、児童代表が参加した「原爆犠牲者国民学校教師と子ども慰霊祭」が、見真講堂では全電通被爆連の「全電通原爆死没者慰霊祭」が開かれた。そして、8月4日から5日にかけて、広島県医師会館でヒロシマ国際アマチュア映画祭受賞作品上映会実行委員会・中国放送・中国小型映画連盟・日本ユネスコ協会の共催で「ヒロシマ国際アマチュア映画祭受賞作品上映会」が開かれた。映画祭のテーマは「平和を生きることの尊さ」であった。

8月5日には、広島市役所前で「広島市原爆死没公務員追悼式」が、常盤橋公園で国鉄被対協の「国鉄原爆死没者第3回慰霊祭」が、中国郵政局講堂で「郵政関係の合同慰霊式」が、世界平和記念聖堂で「原爆犠牲者慰霊・平和祈願ミサ」が、韓国人原爆犠牲者慰霊碑前で「韓国人慰霊祭」が開かれた。同じ日には、万象園で全電通労組の被爆職員、被爆二世職員などで組織する全電通原爆被爆者協議会の「第3回総会」が、松原公園で民学同の「世界大会学生階層別集会」が、郵政会館で「全通原爆被爆者全国協議会の結成大会」が開かれた。全通原爆被害者全国協議会は国労、全電

通、日教組に次いで4番目の全国規模の被爆者組織となった（『中国新聞』1975.8.6朝刊）。さらに、広島市公会堂では中国新聞社・広島交響楽協会主催の「平和への夕べ」が開かれた。「平和への夕べ」はこの年8回目で、被爆30周年記念の行事として広島交響楽団が哀悼歌「祈りの曲」、レクイエム「シャーンティ」、コーラス「悲しみの終わるときまで」を演奏した。

8月5日にはデモ行進が複数行われている。『中国新聞』によると、8月2日までに届け出があった8月5日のデモは9団体10コースであった¹⁰⁾（『中国新聞』1975.8.3朝刊）。廿日市駅前から平和記念公園のルートで山口大学ユネスコクラブ平和キャラバンの「デモ行進」が、松原公園・平和記念公園から広島県立体育館のルートで「第21回原水爆禁止世界大会国民大行進」¹¹⁾が、平和記念公園から広島県立体育館のルートで原水禁国民会議の「草の根平和行進」が、松原公園から平和記念公園のルートで民学同の「デモ行進」が、稲荷橋から、八丁堀、紙屋町、平和記念公園のルートで国鉄動力車労組青年部の「デモ行進」が、広島大学青雲寮から天満屋前、労働会館のルートで8・6広島反戦実行委員会（中核派）の「デモ

9) 後述する通り、実際に行われたデモの数は表中のデモの数よりも多い。

10) 『中国新聞』によると、実際に行われたのは、8月5日と6日を合わせて計14団体18コースであった。これは前年より6コース多い数であった（『中国新聞』1975.8.7朝刊）。

11) 8月5日夕刊の記事では原水爆禁止広島県協議会主催となっており、8月6日朝刊の記事では日本原水協主催となっている。

行進」が行われた。そのほかに、被爆 30 周年原水爆禁止世界大会全国学生実行委員会の「デモ行進」が行われている。

8 月 5 日と 6 日には、原爆供養塔前で広島戦災供養会の「原爆死没者各宗派供養行事」が、朝日会館で広島市と朝日新聞社からなる原爆映画を見る会開催実行委員会主催の「原爆映画を見る会」が行われた。「原爆映画を見る会」で上映されたのは「原爆の子」(1952 年)、「ひろしま」(1953 年)、「生きものの記録」(1955 年)、「純愛物語」(1957 年)、「愛と死の記録」(1966 年)の邦画 5 本とアメリカ映画「渚にて」(1960 年)の合わせて 6 本であった。そして、8 月 5 日から 7 日にかけて、広島県立体育館などで日本原水協の「第 21 回原水爆禁止世界大会(広島大会)」と原水禁国民会議の「被爆 30 周年原水爆禁止世界大会本会議(広島集会)」が、広島青少年文化センター・広島県社会福祉会館・広島原爆病院などで国際教育振興会主催の「日米学生会議」が開かれた。また、8 月 5 日から 10 日にかけて、東京・日本橋の三越本店で広島県・広島市・NHK 中国本部

・中国新聞社からなる開催実行委員会が主催する「ヒロシマ・原爆の記録展」が開催された。この行事は全国 5 都市で開催する被爆 30 周年キャンペーンの展覧会で東京会場は札幌、仙台に続いて 3 か所目であった。この後、大阪と名古屋でも展覧会が開かれた。また、『中国新聞』によると、この行事は首都で開かれる初めての本格的なヒロシマの被爆資料展であった(『中国新聞』1975.8.5 朝刊)。そして、何日間開催されたか不明であるが、8 月 5 日までの日程で広島県立美術館において広島平和美術協会・中国新聞社・広島市が主催する「広島市平和美術展」が開かれた。この行事は、この年が 21 回目の開催で原爆記録画を含む絵画、書、写真、彫刻、宣伝美術、染色、生け花など約 180 点が展示された。

8 月 6 日には、1955 年、65 年と同様に複数の慰霊行事が行われている。日本銀行広島支店では日本銀行広島支店の「追悼式典」が、広島銀行本店では広島銀行の「追悼式典」が、広島市加古町の県慰霊碑前では「県職員原爆犠牲者追悼式」が、原爆ドーム下の慰霊碑では広島市木材同業組

表 5 1975 年 8 月 6 日の慰霊行事

行事名	場所	主催者
追悼式典	日本銀行広島支店	日本銀行広島支店
追悼式典	広島銀行本店	広島銀行
県職員原爆犠牲者追悼式	県慰霊碑前(広島市加古町)	
追悼	慰霊碑(原爆ドーム下)	広島市木材同業組合
追悼式典		中国電力
追悼式典		広島国税局
原爆死没者慰霊祭	国泰寺	広島県被爆者団体協議会
原爆犠牲精霊追悼法要	禅仏寺	比婆郡東城町原爆被害者会
動員学徒追悼式	動員学徒慰霊碑前	動員学徒(等)犠牲者の会
旧広島市女原爆死没者法要	持明院	旧広島市女原爆遺族会
追悼式	追悼の碑前(広島市東千代田町 1 丁目の本部構内)	広島大学
慰霊碑の除幕式と慰霊祭	天満川河岸緑地(広島市小網町)	
慰霊祭	広島女学院大学	広島女学院大学
少年少女慰霊の集い	原爆の子の像の前	
原爆死没者慰霊式・平和祈念式	平和記念公園	広島市
供養会	説教所(広島市土橋町)	
原爆慰霊祭	庄原市内 2 か所	
原爆被爆 30 周年追悼法要	浄土真宗本願寺派築地別院	
とうろう流し	広島市内各河川	広島祭委員会

合の「追悼」が、国泰寺では広島県被爆者団体協議会の「原爆死没者慰霊祭」が、禅仏寺では比婆郡東城町原爆被害者会の「原爆犠牲精霊追悼法要」が、動員学徒慰霊碑前では動員学徒（等）犠牲者の会の「動員学徒追悼式」が、持明院では旧広島市女原爆遺族会の「旧広島市女原爆死没者法要」が、広島市東千代田町1丁目の広島大学本部構内にある追悼の碑前では広島大学主催で広島大学の前身12校合同の「追悼式」が、広島市小網町の天満川河岸緑地では被爆死した旧制広島市立中学校の級友の同窓生が建立した「慰霊碑の除幕式と慰霊祭」が、広島女学院大学では広島女学院大学の前身である広島女学院専門学院・広島女学院高等女学院の職員・学生・生徒の犠牲者の霊を弔う「慰霊祭」が、原爆の子の像の前では「少女少女慰霊の集い」が、平和記念公園では広島市の「原爆死没者慰霊式・平和祈念式」が、広島市土橋町の説教所では旧塚本町の住民が死没者の霊を慰める「供養会」が、庄原市内2か所では被爆軍人や軍属の「原爆慰霊祭」が、浄土真宗本願寺派築地別院では芸能人、宗教家、文化人が中心となって初めての「原爆被爆30周年追悼法要」が開かれた。このほかに、中国電力の「追悼式典」と広島国税局の「追悼式典」もこの日に行われた。また、この日には広島市内の各河川で広島祭委員会主催の原爆死没者の霊を慰める「とうろう流し」も行われた。この行事では川の中央に浮かんだ小舟の上で僧が読経する中、死没者の名前を書き込んだ灯ろうが1つずつ流された。灯ろうの数は計1万5000個であった。

1955年、65年と同様に8月6日には慰霊行事以外の行事も開催されている。平和記念公園では東京クラルテの会の「ティーチイン」が、原爆犠牲者慰霊碑前では「水真流吟詠会」が、庄原市山内町の山内公民館では「当時、被爆者の看護をした看護婦、婦人会員、警防団員ら地元民と、遺族」（『中国新聞』1975.8.7朝刊）が出席した「死没者追悼座談会」が、神杉小学校では被爆当時、神杉小学校に集団疎開していた「疎開児童」6人を招き、当時の体験談などを聞く『『平和教育』の集い』が、安田女子高校では広島市の詩人栗原貞子の詩「生ましめんかな」の主人公である平野美貴子が被爆体験を語り、全員で「原爆許すまじ」

を合唱し、平和問題などについて話し合う『『平和教育』のつどい』が、呉市の広高校では「平和について」の討論を行う『『平和教育』の集い』が、大分県下の小中学校では大分県教組による「平和授業」が行われた。また、この日には核禁会議の「東京集会」も開かれた。8月6日を中心に開催された行事としては、ニュージーランドの反戦ヨット「フリー号」の乗組員たちが開く反核兵器・反戦争のフェスティバルである「ヒロシマ+1（プラス・ワン）」があげられる。そして、8月6日から14日にかけて、福屋百貨店で中国新聞社主催の「丸木位里・俊原爆の図展」が開かれた。この行事は、「夫妻が原爆後の広島を目撃してのち、25年をかけて苦悩の人間像を生み出して来た全14部作とデッサンが会場いっぱいに並べられ」（『中国新聞』1975.8.6夕刊）たものであった。また、8月6日から17日にかけて、東京・赤坂のギャラリー「アメリア」でフリーカメラマンの福島菊次郎が1946年から75年まで原爆をテーマに取り続けた写真8万枚の中から50点を選んで展示する「30年目のゲンバク——放射能遺伝障害の恐怖」が開かれた。

8月5日と同様に8月6日にはデモ行進が複数行われている。紙屋町、相生橋、広島大学のルートで広島反戦集会実行委員会（中核派）の「デモ行進」が、戸坂から松川公園のルートで胎動群衆の渦の「デモ行進」が、平和記念公園から八丁堀のルートで世界真光文明教団の「デモ行進」が、広島大学歯学部から広島大学本部のルートで広島歯学部自治会の「デモ行進」が行われた。

何日間開催されたかは不明であるが、8月7日までの日程で平和記念館では広島市・NHK・平和記念資料館主催の「市民の手で原爆の絵を展」が開かれた。この行事では市民が描いた「原爆の絵」1658点と爆心地から半径2キロメートル以内の復元地図が展示された。

8月8日には、広島港などで在日朝鮮人広島県商工会の「海上デモ」が行われた。そして、8月8日から9日にかけて、勤労福祉会館・国際体育館などで原水禁国民会議の「原水爆禁止世界大会（長崎集会）」が開かれた。

8月9日には、長崎市の平和公園で長崎市の「平和祈念式典」が開かれた。同じ日には、浦上

天主堂で「早朝ミサ」が、長崎市緑町の旧浦上町共同墓地にある原爆犠牲者慰霊塔前で「被爆三十年忌」が、長崎市内の全小中学校で「原爆登校日」が、市民会館で日本原水協の「原水爆禁止世界大会長崎大会」が開かれた。そして、ソウルの仏教寺院では「追悼式」が開かれた。8月9日と10日には南北カリフォルニア被爆者協会の「原爆死没者の追悼慰霊祭」が行われた。この行事は9日にはサンフランシスコで、10日にはロサンゼルスで行われた。

8月10日には、ロサンゼルスで「30周年原爆犠牲者慰霊祭」が、サンフランシスコのセンター・ピース・プラザで日米宗教連盟と米国原爆者協会の「原爆犠牲者慰霊祭」が開かれた。

8月11日には、日米キリスト教合同協会ではアジア系米人行動委員会の「広島・長崎原爆記念集会」が行われた。

8月12日には、平和記念館で広島の文学者ら62人からなる原爆を書いた物故文学者を語る広島の会実行委員会の主催で「原爆を書いた物故文学者を語る広島の会」が開かれた。この行事では、原民喜、太田洋子ら20人の原爆を書いて死んだ文学者について語り合われた。

8月13日には、大阪市立労働会館で韓国の原爆被害者を救援する市民の会の「被爆韓国人を囲む市民交流集会」が開かれた。

8月18日と20日には、「被爆者相談」が行われた。この行事は18日には八本松松翠苑、志和支所で、20日には高屋町福祉センター、東広島市役所相談室で行われた。

8月23日には、浄光寺で被爆死した元広島陸軍幼年学校の同期生3人の「慰霊祭」が行われた。

9月27日と28日には、シュパイツアー日本友の会の「アルベルト・シュパイツアー博士生誕百年記念シンポジウム」が開かれた。この行事は、科学者として核兵器の廃絶と世界平和を訴え続けたアルベルト・シュパイツアーの精神を学ぶものであった。27日には県医師会館で、28日には広島女学院高校講堂で行われた。

この年には詳細な開催日程が不明な行事も複数

あった。8月には、平和記念館で広島市の「被爆写真資料展」と「原爆の記録映画上映」、「被爆者相談コーナー」が行われた。これらの行事の入場者は前年よりも大幅に減少した。広島市は入場者が減少したのは全国的に原爆展が開かれていることなどが原因であるとしていた（『中国新聞』1975.8.9朝刊）。そして、8月末には京都で「パグウォッシュ会議」が開かれた。パグウォッシュ会議はラッセル・アインシュタインの呼びかけに応じて結成された会議で、8月末の会議では「核兵器の廃絶への新しい構想」を主題に掲げた。これと同じテーマで9月初旬には、広島で日本平和学会の行事が開催された¹²⁾。このほかにもロサンゼルスで「原爆写真展」が行われたが、具体的な日程は不明である。この行事は8月7日の夕刊に掲載された。

3.3.2 小括

この年代の行事の特徴は2点ある。

まずあげられるのが、様々な形で原爆という出来事を伝える行事が多様な主体によって開催されていることである。平和教育関連では「広島・長崎30年後——ウィルミントン会議」で平和教育の教材づくりが行われ、学校現場で『『平和教育』のつどい』や「原爆登校日」という行事が実施された。行政では広島市が平和記念館で行った「被爆写真資料展」「原爆の記録映画上映」や、広島市と新聞社などとの合同の委員会による全国5都市での「ヒロシマ・原爆の記録展」が実施された。民間では原爆写真家の個展である「ヒロシマは生きている」や中国新聞社主催の「丸木位里・俊原爆の図展」などが行われている。

2点目にあげられるのが、デモが多様な団体によって行われていることである。1965年には広島では原水禁運動関連の「平和行進」は行われていたが、1975年にはそれ以外の団体によってもデモが行われるようになっている。

4 おわりに

本稿では、1955年、65年、75年の8月1日から15日までに発行された『中国新聞』に掲載さ

12) 行事名は不明である。

れたすべての原爆関連行事について記述してきた。すべての行事について記述することで、先行研究で注目されてきた慰霊祭¹³⁾や原水禁運動の関連行事¹⁴⁾などのほかに展覧会や映画の上映会、デモや集会などの行事が行われていたことが明らかになった。

1955年、65年、75年の3時点の比較をすることでみえてくるのは、1955年、65年の時点では慰霊行事や平和運動など参加者が原爆という出来事を共有していることを前提とする行事が中心であったが、1975年になると、そのような行事に加えて、原爆について参加者に知ってもらうために行われるという意味で参加者が原爆という出来事を共有していることを前提としない行事が目立つようになってきたということである。

冒頭でも述べた通り、本研究は広島における原爆関連行事を戦後10周年から10年ごとに記述するものであり、本稿では1955年、65年、75年の3つの年代を記述してきた。今後、1985年以降の行事についても記述していくことにしたい。

付記

本稿は2019年度に関西学院大学大学院社会学研究科に提出した修士論文の付録資料の一部を文章化したものである。

文献

- 江嶋修作, 1977, 「『被爆体験』に関するシンボリズムの分析」『商業経済研究所報』広島修道大学商業経済研究所, 15: 7-35.
- 福岡良明, 2011, 『焦土の記憶——沖縄・広島・長崎に映る戦後』新曜社.
- 浜日出夫, 2005a, 「ヒロシマからヒロシマたちへ——ヒロシマを歩く」有末賢・関根政美編『叢書 21 COE-CCC 多文化世界における市民意識の動態 7 戦後日本の社会と市民意識』慶應義塾大学出版会, 23-44.
- , 2005b, 「集中するヒロシマ・分散するヒロシマ——ヒロシマの継承の可能性」『日仏社会学会年報』15: 31-43.
- 広島市, 2020, 「令和2年度平和関連行事一覧表（令和2年7月30日時点）」, 広島市ホームページ, (2020年10月24日取得, <https://www.city.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/120661.pdf>).
- 中野康人, 2009, 「社会調査データとしての新聞記事の可能性——読者投稿欄の計量テキスト分析試論」『関西学院大学 先端社会研究所紀要』1: 71-84.
- 山本昭宏, 2012, 『核エネルギー言説の戦後史1945-1960——「被爆の記憶」と「原子力の夢」』人文書院.

13) 慰霊祭を扱った研究として浜（2005a）がある。

14) たとえば、1955年の「原・水爆禁止世界大会」を扱った研究として福岡（2011）や山本（2012）がある。

The Transition of Events Surrounding the Hiroshima Atomic Bomb (1)

ABSTRACT

This article describes events surrounding the Hiroshima atomic bomb in 1955, 1965, and 1975. Preceding studies focused only on ceremonies or central events such as the peace ceremony or conference of a movement to ban atomic and hydrogen bombs. These studies overlooked the existence of various types of events. Therefore, this study comprehensively describes events surrounding the Hiroshima atomic bomb. The data were collected from the local newspaper *The Chugoku Shimbun*. This paper describes all the events that appeared in the local newspaper published in the first half of August of each year. Through description, this study reveals the existence of various types of events surrounding the Hiroshima atomic bomb such as ceremonies, concerts, exhibitions, demonstrations, and assemblies. In 1955 and 1965, the mainstream events were ceremonies and the assembly of social movements. During these events, it was assumed that participants remembered or knew about the atomic bomb. Conversely, events such as a peace education program and an exhibition that told the history of the atomic bomb were held in 1975. During these events, it was not presupposed that participants remembered or knew about the atomic bomb.

Key Words: sociology of warfare, the Hiroshima atomic bomb, events